アジア美術協会、「日韓国交正常化60周年記念」展を開催

9月4日から9日まで、福岡アジア美術館にて… 韓国・日本・ドイツ・インドなどから110点余り出品

アジア美術協会（会長：キム・イルファ）は、9月4日から9日まで日本・福岡市の福岡アジア美術館にて「第3回アジア美術協会定期展」を開催すると15日発表した。今回の展覧会は、日韓国交正常化60周年を記念し、「未来に向けた芸術的交流」をテーマに開催される。

韓国、日本、ドイツ、インドなど、様々な国の中堅および新進作家が参加し、絵画・彫刻など多彩なジャンルの作品110点余りが展示される。特に日本の作家は、日本各地域で活躍される 中堅作家達25名が参加される。

# 外務省・総領事館の公式承認…「意義ある芸術交流の場」

アジア美術協会のキム・イルファ会長は、「今回の展示は、日韓国交正常化60周年という歴史的な意義を記念して企画されたものであり、駐福岡大韓民国総領事館からの後援名義承認と、大韓民国外交部による行事名称および公式ロゴの使用承認を得て、より意義深い行事として開催される」と述べた。

さらに「芸術は心と文化をつなぐ最も美しい道である」とし、「日本各地や海外から参加してくださった作家の皆様に感謝するとともに、本展を通して観覧者の心にも新たな感動と交流の種が芽生えることを期待している」と語った。

# アジアを越えて世界へ広がる芸術ネットワーク

アジア美術協会は、韓国、日本、中国、カザフスタン、インド、インドネシアなど、アジアを中心とした多国籍の創作芸術家による団体である。文化芸術交流および情報交換を目的に、2023年にソウル・仁寺洞で創立展を開催し、昨年は日本の佐賀県立美術館で展覧会を行った。今年で3回目を迎える本展は、アジアを越えて世界へと広がる芸術ネットワークを示す舞台となることが期待されている。